



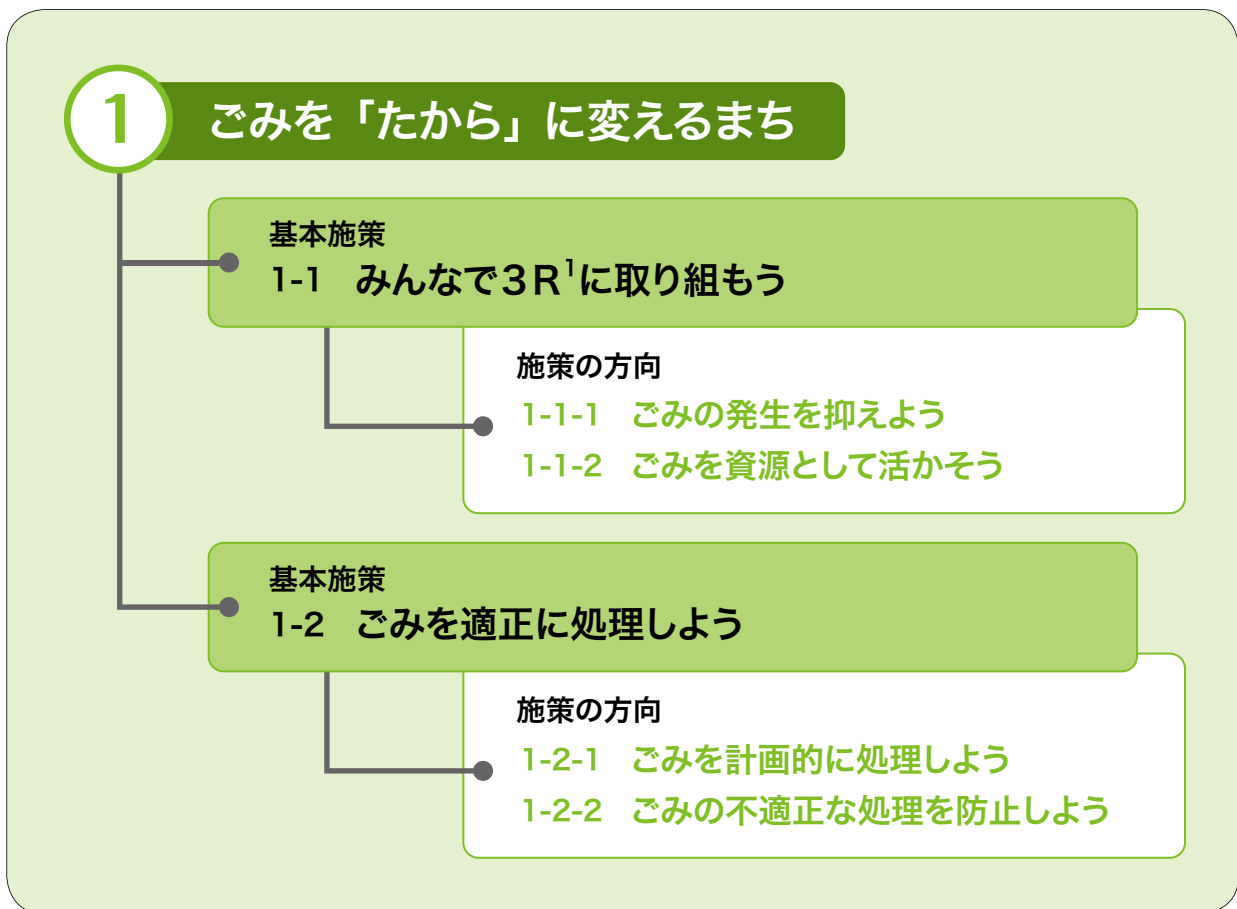
ごみを「たから」に変えるまち

私たちが豊かな生活を将来にわたって維持していくためには、限りある地球上の資源を、有効に利用するとともに、不法投棄やごみの不適正処理の防止に努め、ごみによる環境への負荷を低減させる必要があります。

市民アンケートの結果を見ると、環境問題の項目の中でも「ごみやりサイクル」への関心度が高く、市民のごみに対する意識の高さがうかがわれます。

また、市民会議では、ごみの有効利用に関する知恵を将来の世代に伝えることに加え、新たな技術を導入しつつ、ごみの再資源化を推進することにより、ごみに新たな価値を見出すことが重要であるという意見が挙げられました。

これらのことを踏まえ、本市では、資源の大量消費、大量生産、大量廃棄やごみの不適正処理、不法投棄などによる環境への負荷を低減させるため、現在のライフスタイルを見直し、ごみ減量に対する意識をさらに高めつつ、機会を捉え、効率的なごみ減量や再資源化の在り方について検討するとともに、ごみ処理に対する監視指導体制を強化することにより、適正処理の一層の推進を図り、ごみを「たから」に変えるまちづくりを目指します。



1 P9に語句説明あり。

1 ごみを「たから」に変えるまち

1-1 みんなで3R¹に取り組もう

ごみの減量、再資源化などに関する意識啓発を行うとともに、新たな再資源化ルートの構築などを推進することにより、各主体が協働でごみの3Rの推進に取り組みます。

1-1-1 ごみの発生を抑えよう

(1) ごみ減量に関する意識啓発

- ごみ減量に関する地域や学校での説明会や学習会を実施し、市民へのごみ減量に対する意識啓発を行います。
- 環境学習施設を活用し、ごみの減量などに関する展示や講座、リサイクル家具の販売などを行うことにより、市民のごみ減量に対する意識の高揚を図ります。
- ホームページの内容を充実させるとともに、分かりやすい啓発冊子などを作成し、ごみ減量に対する意識啓発を行います。



(2) ごみ減量体制の整備

- 地域住民や事業者などによるごみの減量に対する活動を支援し、各主体が協働してごみの減量に努めます。

(3) 社会基盤や公共施設の長寿命化

- 老朽化が進んでいる社会基盤や公共施設については、効率的な更新整備や計画的な維持管理を行うことにより、長寿命化を図り、ごみの発生を抑制します。

1-1-2 ごみを資源として活かそう

(1) 資源回収の推進

- ごみの分別に関する地域や学校での説明会や学習会の実施などにより、各主体が協働して、再資源化に配慮した分別収集の徹底を図ります。

(2) 再資源化ルートの開拓

- 市民・市民活動団体・事業者などと連携しつつ、ごみを資源として有効に活用するルートを整備し、再資源化率の向上を図ります。
- 下水道汚泥やごみ処理施設から発生する副産物について、さらなる再資源化を目指します。
- ごみ処理計画の改定時など、機会を捉え、ごみ処理方法を見直すことで、ごみの再資源化に努めます。

1 P9に語句説明あり。

1-2 ごみを適正に処理しよう

ごみ処理施設の適正な維持管理や運営により、安全かつ安定的にごみを処理します。また、不法投棄やごみの不適正処理に対する監視・指導を強化するとともに、ごみの不適正処理事案については、迅速かつ適切な対応を行い、ごみの適正処理を推進します。

1-2-1 ごみを計画的に処理しよう

(1) ごみ処理施設の適正な維持管理

○各施設の耐用年数や処理状況などに応じた適正な維持管理により、処理能力及び処理機能の確保に努めます。

(2) ごみ処理施設の計画的な運営

○各施設のごみ処理状況や排出量の将来推計などを踏まえ、計画的な運営方針を検討し、ごみ処理体制の効率化を図ります。

(3) 災害時のごみ処理体制の整備

○「松山市災害廃棄物処理計画」に基づき、災害時における、速やかで安全なごみ処理を目指します。

1-2-2 ごみの不適正な処理を防止しよう

(1) 不法投棄防止対策の強化

○各種団体や地域住民との連携強化や常習箇所などへの監視強化、啓発看板の設置などにより、不法投棄の早期発見及び抑制に努めるとともに、不法投棄を発見した際には、迅速かつ適切に対処します。

(2) 事業者に対するごみの適正処理の徹底

○事業系ごみの適正処理を推進するため、各事業所に対し、啓発用冊子を配布し、周知徹底を図ります。

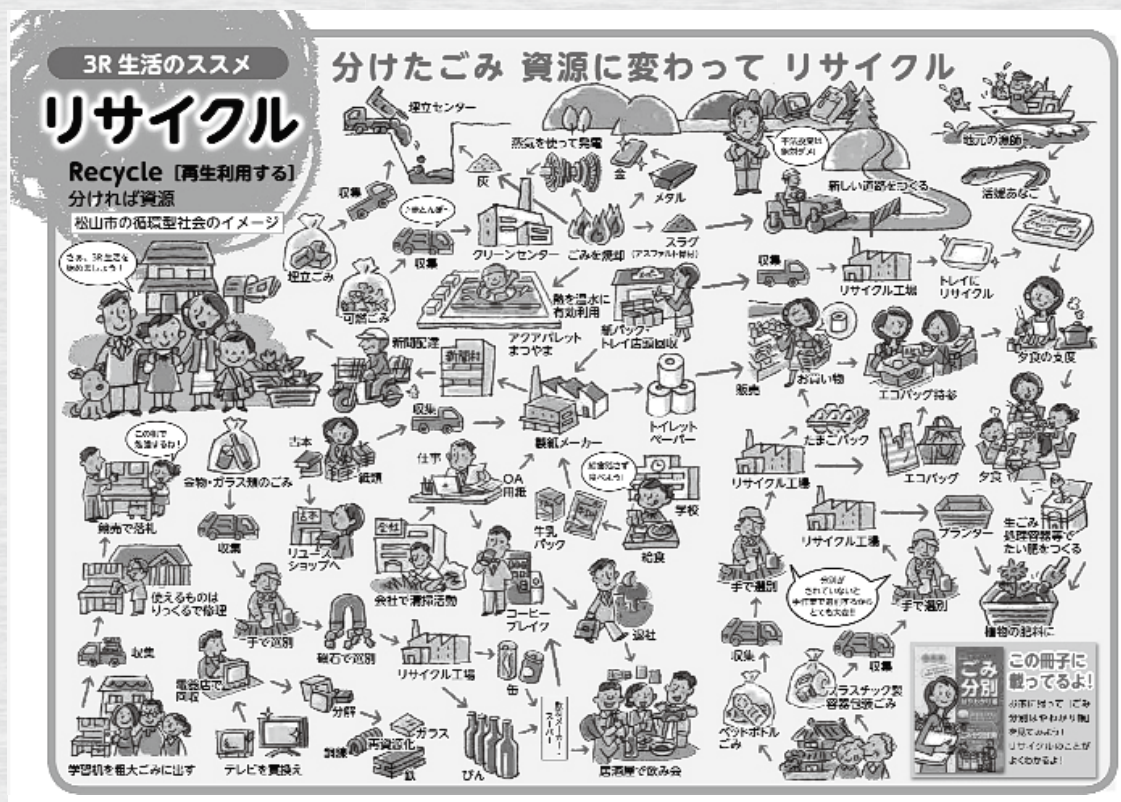
○ごみ収集業者や処分業者への監視・指導を徹底することで、ごみの不適正処理を防止するとともに、不適正処理事案については、迅速かつ適切に対応します。

○ごみ処理に関する情報を収集し、関係機関との連携を深めることで、ごみの不適正処理の早期発見、早期解決に努めます。

コラム 4

松山市の循環型社会のイメージ

本市が市民や事業者の皆様から収集したごみは、選別、解体などの処理工程を経て、様々な資源として活用されています。ごみの分別は手間のかかることですが、一人ひとりの意識によってごみが「たから」に変わります。



出典：松山市ごみ分別はわかり帳

また、近年では、従来の「3R」の考え方を拡大して、「5R」という言葉が使われることもあります。循環型社会の構築に向け、一人ひとりが、身近なところからごみを「たから」に変える行動を始めることが重要です。

3R

- リデュース (Reduce) ごみを減らす
- リユース (Reuse) 繰り返し使う
- リサイクル (Recycle) 再び資源として利用する

5R

- リフューズ (Refuse) 不要なものはもらわない
- リペア (Repair) 修理して使う

1 P9に語句説明あり。